炭労政策情報

「需要を確保せよ」

衆院石特委で、中沢議員が追及
通産相―8次策の基本変わらぬ

四月二十二日、衆院石炭対策特別委員会が開かれ、炭労政治局員の中沢議員が質問に立ち、第八次石炭政策下の石炭産業対策などを政府に追及しました。

中沢議員は、第八次石炭政策初年度の六十二年度における石炭産業の実態は「まさにナダレ現象であり、雇用・地域対策も不十分である」と鋭く政府につめよりました。また、今後の見通しについても「需要確保、産炭地域振興、雇用対策などについて、政府はもっと積極的に施策を講ずるべきである」として、田村通産相の答弁を引き出すなど、政府の見解を求めました。以下、質疑応答の要旨は次のとおりです。

需要問題

(質問)…六十二年度の生産実績を見れば、まさにナダレ現象である。新聞報道にあるとおり、三井も大合理化を考えているのは、需要の見通しが暗いからである。六十三年度は原料炭引き取り交渉について、大臣も一定の役割を果たすなどして、需要の削減幅を少なくするべきだ。

(通産相)…第八次石炭政策の基本は変えられないが、私としてもナダラカ縮小のため需要業界にできるだけ協力を求めていく。特に原料炭引き取りについて、六十二年度は一定の役割を果たしたが、六十三年度においても同じような役割を果たしたいと思っている。

雑炭問題

(質問)…年々生産量が減っているのに比べ、雑炭は増えている。雑炭そのものを野放しにしているのではないか。

(石炭部長)…雑炭は、品位調整上やむを得ない点や、流通過程における要因など複雑であるが、基本的には坑内炭生産に悪影響を与えないよう監視指導する。

未払い労務債

(質問)…幌内の未払い労務債について、政府はどのように指導したか。

(石炭部長)…金融債務に関する取り扱い(配慮)を前提として、六十六億円の未払い退職金のうち、六十三年度は十五億円支払うことになっている。今後も強く指導していく。

砂川無重力実験センター

(質問)…砂川の坑内を利用した無重力実験の実施状況について明らかにせよ。

(エネ庁長官)…十月一日よりNEDOを改組して、そこで資金援助等の作業を行う予定だが、四月より予算を準備、現在、技術的な詰めやニーズの調査中である。

産炭地域振興

(質問)…産炭地域に対する事業資金の確保をはかるべきだ。

(石炭部長)…産炭地域総合支援事業として、今年度から2事業プロジェクトに対する資金援助を予算化したが、NTT株売却資金による無利子融資の取り扱いについては、今後、地元の熱意を背景として具体化していくことになる。

雇用問題

(質問)…炭鉱離職者の再就職状況が悪い。具体的施策を。

(労働相)…現行諸制度の他に、職業訓練については委託訓練などで機能的な訓練を行っている。今後も地域の実情に即して、弾力的に運営して再就職に結びつけたい。

需要量増加の中で引き取り量は確実に減る

三池遺族会団結旅行の案内

とき　5月8日(日)午前9時　三池労組集合、出発
ところ　植木温泉「高野屋」
かいひ　3,000円

四山鉱の歴史の中から

数字の食い違い

第八回

武松輝男

前号の「採炭と採炭夫」の記述の坑内外総坑夫数からみた一人当たり平均噸数について、誤解がないように少しふれておきたい。

前号では「一人平均六百五十キロで一トンにも満たない」と記した。人当たり平均出炭噸数のとりかたにも、いろいろな方法があって、その計算方法あるいは出典などについてある程度のことを記しておかないと、統計表などをつくられる場合、数字の食い違いにほとほと困ることがあるのではないかと思うので、そのことについて補足する。

前号で述べた平均噸数は、三池炭鉱五十年史編纂用素稿とみられる『三池各山切羽数及出炭一人当噸数』からとったものである。

出炭噸数についてのもう一つの資料は、『三池炭鉱、石炭生産・災害・採炭・人員年次別一覧表』(未発表)で、これによると大正十五年の一人当たり出炭噸数は二トン二百四十キロとなっている。

どうしてこういう違いが出るのか。前者の人当たり出炭噸数は請負坑夫や日雇坑夫などを含めた坑内外諸鉱夫で割り出されたものであり、後者の人当たり出炭噸数は炭坑(ヤマ)に所属する坑内外直轄坑夫で割り出されたものである。

こう違いがあることを、常に念頭に置いておかないと間違いをおかすことになりやすい。

こういう数字の食い違いは、昔の手計算や算盤だからであったからだと思い込んでしまうむきもある。

ところがそうではない。卑近な例をとってみると、日本の全炭鉱の出炭量についてみても、朝日年鑑と読売年鑑、それと日本国勢図会の昭和五十四年から五十八年までの全国石炭生産量が違っている。

石炭生産というのは、年次別に統計がとられるはずだから、その統計数字が基本となるとすれば、出炭噸数の食い違いなどおこるはずはないものと、素人風に考えがちである。が現実はそうではないらしい。

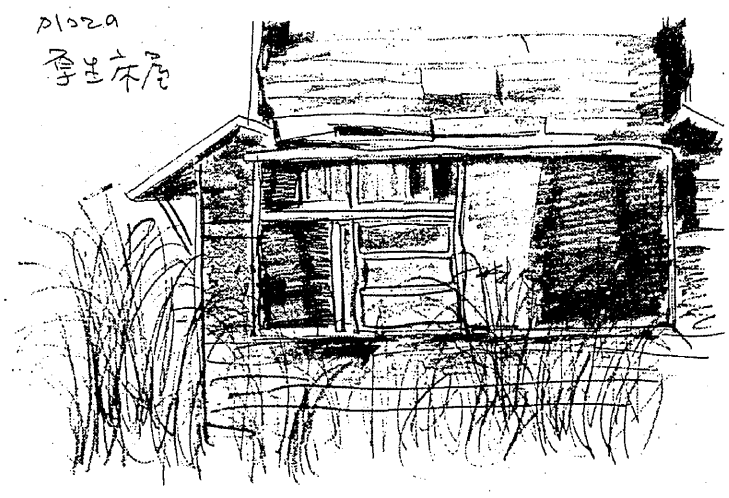
三池炭鉱についても考えてみよう。三井鉱山が発行している社内誌は二つある。『社内時報』と『技術ダイジェスト』である。この二つの社内誌から、昭和四十一年から五十四年までの三池炭鉱人当たり出炭噸数を見てみると、数字の食い違いが随所にある。

『社内時報』の発行元は人事部、『技術ダイジェスト』の発行元は生産部。『社内時報』は一般社員向けなので、いわば三井鉱山・三池炭鉱の顔。『技術ダイジェスト』は、社内で生産にたずさわる三井鉱山・三池炭鉱の体であり腕ともいえる。

この顔と体と腕とを比較してみると、顔になる『社内時報』の方が人当たり出炭量が、およそ一割ほど少ない。一般社会向けには少ない数字を発表し、生産量が少ないから奮発をと呼びかけ、いわば内部向けとでも言っていい『技術ダイジェスト』では、実際はこれだけ出炭しているのですよ、と。それでも頑張ってほしい、と言っているようにも受けとれる。

出炭量ではこういう操作がされているように思えるが、これがこと災害について、こういう操作が行われるようなことにでもなればそれこそ大変である。

四山鉱では昭和十二年から十七年までの戦争期に災害が最も多かった。他国に侵略するためには膨大な資源がいる。そのために石炭の集中拡大生産が必要であり、なりふり構わぬというありさまであったに違いない。数字にもそれが示されている。



カットも筆者

(二面から続く)

改善、ナショナルセンターとしての最低規制力や国民との〝共闘〟などが課題といえる。

とりわけ、「連合」の調整・指導の問題では、七単産会議の評価を含め「連合は政策闘争、賃上げは単産責任」をめぐって賛否両論のきしみも強まっている。春闘方式とは産別の賃金闘争をナショナルセンターの指導性で全国統一闘争へ拡大させるものであり、その転換は大きな争点となろう。

拡大する〝左派春闘〟

一方、〝左派春闘〟では最大勢力の統一労組懇春闘をはじめ、国労など反「連合」勢力二十八組合による八八春闘懇の結成、出版労連など二十五単産でつくる純中立懇の発足二十年目の初の春闘集会など、新たな動きが台頭したのが、大きな特徴だ。

いずれも中央春闘共闘の解体や来秋の総評解体をにらんだ動向だ。とくに今春闘で階級的センターの確立を展望する統一労組懇は初の春闘白書作成やコンピューター集計、全国統一闘争などセンター機能を強化。四月十五日の初の賃上げ全国ストには二千五百組合、約二十三万人が春闘ストに突入し、他団体との違いをみせた。「すべてのとりくみが史上最高」(春山事務局長)と確信を語る。

〝連合春闘〟は他方で〝左派春闘〟を拡大させつつ、〝競合春闘時代〟への大きな転機を迎えている。〔連合〕

さらに、要求のあり方では、好況下での実質賃金論の是非や日経連の主張する「成果は一時金、時短」などへの対応策も緊急課題とされている。

闘い方では「ゆとりある生活」をめざす新たな闘争パターンの発見も重要課題。決着の構図は前年プラス一%を争点に上積み闘争でJC主導、三次共闘の〝苦戦〟となっているが、今後、減税や〝賃下げ税〟といわれる大型間接税問題、時短を含め「連合」の闘いが注目される。

こんな本はいかが…

『クイズ 反核・平和』

世界の軍事費は、一年間におよそどれくらいでしょう?――①一三〇兆円②六〇兆円③五兆円④一兆円(正解は④)

水着の「ビキニ・スタイル」という名前は、核実験場として使われてきた「ビキニ環礁」と関係があるでしょうか?――①あるわけないでしょ/②おおあり名古屋のこんこんちき/(正解は②。説明はこの本で)

こんな調子でズラリと五十問、反核・平和についてのクイズが並んでいます。ウーン、とうなり、答えを見て、エーッ、ホント、ウソーッ/と奇声を発しているうちに、日本と世界の近現代史、平和問題に強くなる、というオモシロマジメの本。

著者は、放射線問題の学者で、核問題の講演などで東奔西走、大学の講義でも玄人ハダシのマジックで学生たちを煙に巻く、立命館大の名物教授。(安斎育郎著、かもがわ出版、二五〇円)

【四面クロスワード・パズルの答え】
「ゴールデンウィーク」